

第8章 病診連携等推進対策

【現状と課題】

現 状

- 1 医療機関相互の連携
 - 軽症患者も病院を受診することで、患者にとって待ち時間が長くなるとともに、病院勤務医への負担となっています。
 - 多くの病院、診療所は、患者の症状に応じて他の医療機関に紹介・転送しています。
 - 患者の紹介・転送に伴う診療情報の提供もほとんどの場合実施されています。
- 2 病診連携システムの現状
 - 医療機能情報公表システム（平成24年度調査）によると、地域医療連携体制に関する窓口を実施している病院は89.5%となっています。（表9）
 - 愛知県医師会、地区医師会では、地域医療支援病院を始めとする医療機関との関わりを通じ、病診連携の支援を行っています。
- 3 地域医療支援病院
 - 本圏域において病診連携システムの中心となる地域医療支援病院として、総合大雄会病院と一宮市民病院の2病院が承認されています。
 - 多くの病院、診療所は、患者の症状に応じて他の医療機関に紹介・転送しています。
 - 患者の紹介・転送に伴う診療情報の提供もほとんどの場合実施されています。

課 題

- いつでも、だれもが症状に応じた適切な医療を受けるためには、患者紹介システムを確立する必要があります。
- 医療機関相互の連携を推進するためには、患者紹介システムが重要ですが、実効的なシステムとするためには逆紹介（病院の退院患者を地域の診療所へ紹介すること）を確立する必要があります。
- 患者の必要とする医療情報についても整備していく必要があります。
- 病診連携の推進のためには、患者紹介のほか病院の入院部門の開放化、高度医療機器の共同利用などの病院の開放化を進める必要があります。

【今後の方策】

- 医療機関の機能分化と相互連携を推進するため、病診連携システムの整備を推進します。
- 患者紹介・逆紹介のシステム化や病院施設・設備の開放・共同利用など、地域の医療機関が連携する仕組みづくりを推進します。

図8 尾張西部医療圏病診連携推進事業の概要

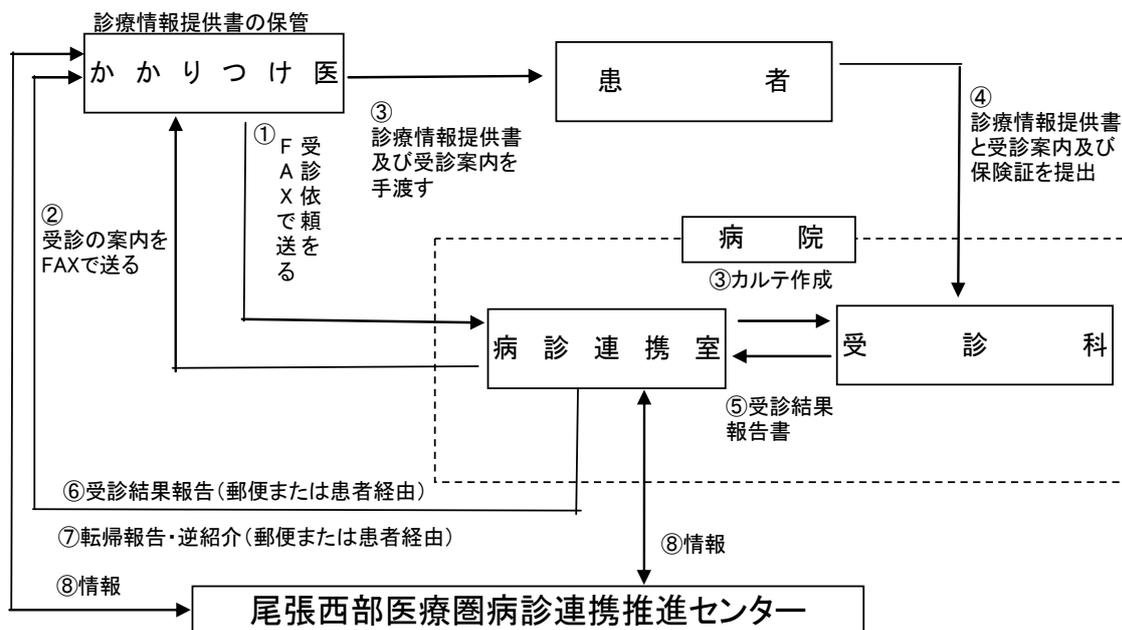


表8 病診連携の実施状況

地区	病院数 (a)	地区医療連携体制に関する窓口を実施している病院数 (b)	b / a
一宮地区	15	14	93.3%
稲沢地区	4	3	75.0%
合計	19	17	89.5%

資料：愛知医療機能情報公表システム（平成24年度調査）

病院数は平成24年10月1日現在